

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284106

研究課題名(和文) 17～19世紀オスマン帝国における近代社会の形成

研究課題名(英文) Formation of Modern Society in the Ottoman Empire, 17th to 19th Centuries

研究代表者

秋葉 淳 (Akiba, Jun)

千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授

研究者番号：00375601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、17世紀から19世紀のオスマン帝国の社会変容を、近代社会の形成という視点から明らかにすることを目的とし、オスマン帝国史における「近代」を、17世紀からの連続性の中で捉え直すものである。この課題につき、国家・社会構造の変化、法とその実践、文字文化・リテラシー、歴史意識と社会思想、都市社会の変容、宗教と社会、比較史といった観点から検討した。この検討を通じて、それぞれの観点において重要な変化が19世紀以前から始まっており、とくに18世紀にはオスマン帝国の国家、社会の編成において新しい局面を迎えていたことを実証的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to understand the social transformation in the Ottoman Empire during the seventeenth and nineteenth centuries from the viewpoint of the formation of modern society. It also tried to reconsider the "modernity" in Ottoman history by focusing on the continuity from the seventeenth century. To achieve this goal, our research group examined various aspects of Ottoman history, such as the structural change in state and society, law and legal practice, written culture and literacy, historical consciousness and social thought, transformation of urban society, religion and society, and comparative history. Through these investigations, we demonstrated that significant changes had begun well before the nineteenth century, and that the Ottoman state and society had entered a new phase especially during the eighteenth century.

研究分野：オスマン帝国史

キーワード：オスマン帝国史 中東・イスラーム史 西アジア史 社会史 法社会史 エゴドキュメント 書物史
都市社会史

1. 研究開始当初の背景

アジア地域の近代史は、「西欧の衝撃」や西欧化改革開始を以てその始点とされることが多い。オスマン帝国史においても例外ではないが、このような見方は、「近代」とそれ以前との断絶を強調し、19世紀の改革が外部(西欧)に由来することを前提にしている点で問題がある。また、近代以前の歴史や社会が「前近代」あるいは「伝統社会」として一括りにされて、あたかも停滞し変化のなかったような印象を与えてしまう。これに対して16世紀末以降のオスマン帝国の変化、発展を明らかにしようとする研究がなされてきたが、従来の「近代」の時代区分は存続しており、また、欧米の研究では国家形成の問題が焦点となる傾向が強い。

そこで本研究では、近年の欧米圏のオスマン帝国史研究で一般的になりつつある「近世 early modern」の用語法を意識しつつも、おおよそ17世紀に始まり19世紀に連なる長期的な変動を近代への移行として捉え、とくに社会変容に焦点を当てて研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究は、17世紀から19世紀のオスマン帝国の社会変容を、近代社会の形成という観点から明らかにすることを目的とする。すなわち、オスマン帝国史における「近代」を、17世紀からの連続性の中で捉え直すものである。具体的には、旧来の支配層/被支配層間の境界の曖昧化という現象に代表される社会構造の変容の研究と、法や思想を含む文化の社会史という二つのアプローチから、オスマン社会のさまざまな側面における変容を実証的に研究する。こうした実証研究を土台として、世界史的観点から17-19世紀オスマン帝国における近代社会の形成への見通しを示すことによって、オスマン帝国史研究に新しい枠組みを導入することをめざす。

3. 研究の方法

(1)本研究は基本的に、一次史料にもとづく実証的な歴史研究の積み重ねの上に成り立つ。したがって、研究遂行のために、各研究分担者が未公開の文書、写本等の一次史料を各地で収集し、それらを分析していくことが基本的な研究方法である。

(2)以上の基本的研究を踏まえて、国内研究会で知識を共有し、議論を深める。また、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同研究「近世イスラーム世界と周辺世界」(2014-16年度)、NIHU イスラーム地域研究東洋文庫拠点等と連携し、共同で研究会の開催などを行う。

(3)海外の研究協力者を交えた研究会などを通じて意見交換を行い、国際的な共同研究を展開する。こうした研究によってもたらされた成果を、国際学会でのパネルや、国際ワークショップなどで公表するほか、論文・著書の形で刊行する。

4. 研究成果

本研究では、オスマン帝国における17世紀から19世紀にかけての社会の変容を、国家・社会構造の変化、法とその実践、文字文化・リテラシー、歴史意識と社会思想、都市社会の変容、宗教と社会、比較史といった観点から検討した。この検討を通じて、それぞれの観点において重要な変化が19世紀以前から始まっており、とくに18世紀には国家、社会の編成において新しい局面を迎えていたことを実証的に明らかにした。具体的には以下に示すとおりである。

また、本研究では海外の研究者との交流、連携を重視し、国際研究集会を数多く開催した。なかでも2017年の国際ワークショップは、18世紀の社会変容についての国内外の研究の達成点を示し、それを研究者間で共有することができた点で、重要な成果の一つとなった。これ以外にも国際学会での研究発表や外国語での論文・著書刊行を多数行なったことが本研究の成果の特徴である。国際学会でのパネルはトルコの政治事情により、参加者の辞退が相次いだため実現できなかった。また、論集刊行にも至らなかったが、国際査読誌での論文発表がそれを十分に埋め合わせる成果と言える。

(1) 国家・社会構造の変化

シャリーア法廷裁判官制度の研究を通じて、18世紀におけるその徴税請負制的構造を解明し、それが財政構造の転換と軌を一にしていたことを明らかにした。この構造変化にもなう裁判官の社会的バックグラウンドを研究するために、研究代表者がB.エルゲネ氏(米国ヴァーモント大学)と共同して裁判官の遺産目録を収集して分析に着手した。これはまだ予備的成果しか得られていないが、イスタンブルを拠点とする中間層的な裁判官と、地方を拠点とする地方名望家タイプとの違いが析出された。後者については、一部地域における多数の裁判官=名望家の台頭という現象について分析した。加えて、19世紀後半から20世紀初頭に至る裁判官制度の変化にまで視野を広げて論じた。また、研究協力者の岩本佳子は遊牧民集団と国家の関係の変容を解明した。

(2) 法とその実践

シャリーア法廷と地方官のディーワーン(会議)との関係、シャリーア法廷の発給文書について検討し、シャリーア法廷のみでは完結しないオスマン帝国の法実践のあり方の一端を解明した。連携研究者の高松洋一は、君主の意思を示すハットゥ・ヒュマーユーン(宸筆)という文書様式についてその特徴を明らかにした。また、連携研究者の近藤信彰は、オスマン朝との比較を視野に入れつつ、サファヴィー朝期イランの司法行政の研究を進め、成果を発表した。

(3) 文字文化・リテラシー

18世紀にはオスマン帝国各地で「図書館ブー

ム」と言われる現象が起きるが、それに関連してオスマン朝の書物文化に関して本研究を通じて多数の成果が得られた。女子教育についても、新しい史料を加えて19世紀後半の教育改革以前から相当程度普及していたことを具体的な数値によって明らかにし、18世紀の文字文化の普及と関連づけて論じた。また、18世紀末～19世紀初頭に書かれた備忘録と地方年代記を採り上げて自己の語られ方や都市の記憶について分析を加え、これらの史料が、オスマン社会における都市中間層の成長や社会階層の流動化を背景とする、文字文化の担い手の裾野の拡大を示している点を指摘した。この研究は自己語り史料/エゴドキュメント研究に展開した。

(4) 歴史意識と社会思想

分担者の小笠原弘幸は、16世紀から20世紀初頭にまで至るオスマン帝国の歴史書や系譜書などから、オスマン朝権力の歴史意識や正統性の問題を探究した。思想的変容の到達点の一つとして、ユースフ・アクチュラの『三つの政治路線』の翻訳を刊行した。また、研究代表者は備忘録と地方年代記から、都市中間層の歴史意識の一端を明らかにした。

(5) 都市社会の変容

都市社会の変容については、連携研究者の澤井一彰が環境史・災害史の観点からアプローチし、都市の復興のプロセスを明らかにした。研究協力者の守田まどかは、18世紀に国家権力による都市の社会秩序に対する介入が強化されるとともに街区の凝集力が増していく過程を、移住民の統合やジェンダー規範、婚姻の管理などの観点から解明した。研究代表者も、都市の記憶の問題から、中間層の成長が文化の担い手の拡大につながっていたことを示した。

(6) 宗教と社会

ヨーロッパ史で議論されている「宗派化」の問題は、オスマン帝国史においても近年注目されているテーマである。本研究では、国際ワークショップのセッションで「宗派化」を主題とし、オスマン帝国のイスラーム、アルメニア教会、そしてヨーロッパと日本の比較宗教社会史の専門家を招いて議論し、この概念を応用する意義を確認した。また、この現象と同時期のオスマン社会のスーフィズムについては、連携研究者の東長靖による共著・編著の中で検討された。

(7) 比較史

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同研究「近世イスラーム世界と周辺世界」(2014-16年度)、近藤信彰を研究代表者とする科研費基盤(A)「イスラーム国家の王権と正統性—近世帝国を視座として」と連携しつつ、「近世」という時期区分の問題や、オスマン帝国とイランの司法行政、イスラーム諸王朝における正統性の問題などを検討した。オスマン帝国の裁判官制度はフランスなどの売官制と比較して考察された。また、エゴドキュメントや「宗派化」の研究におい

ても、比較史的観点から位置付けを行なった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計13件)

Jun Akiba. “Girls Are Also People of the Holy Qur’an”: Girls’ Schools and Female Teachers in Pre-Tanzimat Istanbul.” *Hawwa: Journal of Women of the Middle East and the Islamic World*, 2018, 掲載決定。(査読有)

②Jun Akiba. “Shari’a Judges in the Ottoman Nizamiye Courts, 1864-1908.” *Osmanlı Araştırmaları*, 51, 2018, 209-237。(査読有)

Hiroyuki Ogasawara. “Enter the Mongols: A Study of the Ottoman Historiography in the 15th and 16th Centuries.” *Osmanlı Araştırmaları*, 51, 2018, 1-28。(査読有)

澤井一彰「1660年のイスタンブル大火とユダヤ教徒コミュニティ」『桜文論叢』96, 2018, 271-296。(査読有)

小笠原弘幸・秋葉淳(監訳)「ユースフ・アクチュラ『三つの政治路線』」『史淵』155, 2018, 135-165。

小笠原弘幸「オスマン/トルコにおける「イスタンブル征服」の記憶 1453-2016年」『歴史学研究』958, 2017, 47-58。

Kazuaki Sawai. “A Survey of Historical Research on Natural Disasters in Early Modern Istanbul.” *Mediterranean World*, 23, 2017, 155-161。

Keiko Iwamoto. “A Study on the Turning Point of the Ottoman Policy toward Nomads: The Settlement Policy of Turkish and Kurdish Nomads in the Seventeenth and Eighteenth Centuries.” 『日本中東学会年報』32, 2017, 69-95。(査読有)

高松洋一「オスマン朝のハットゥ・ヒュマール(宸筆)」『歴史と地理』699, 2016, 26-33。

Madoka Morita. “Between Hostility and Hospitality: Neighborhoods and Dynamics of Urban Migration in Istanbul (1730-54).” *Turkish Historical Review*, 7(1), 2016, 58-85。(査読有)

小笠原弘幸「オスマン帝国タンズィマート期(1839-1876年)における歴史教科書」『史淵』152, 2015, 107-133。

澤井一彰 “The Great Istanbul Earthquake of 1509 and Subsequent Recovery.” *Mediterranean World*, 22, 2015, 29-42。

Nobuaki Kondo. “The Lives of Qabalahs: Annotation, Transcription and Registration of Documents in Early Modern Iran.” *Eurasian Studies*, 12, 2014, 561-575。(査読有)

[学会発表](計46件)

Jun Akiba. “Ottoman Venality, or Tax Farming of Judicial Offices in the Ottoman Empire, c.1700-1839.” (招待講演)Shari’a Workshop(国際学会), 2018.1.26, Columbia University(米国、ニューヨーク)。

秋葉淳「オスマン帝国史におけるエゴ・ドキュメント研究の展開と展望」日本オリエント学会第59回大会, 2017.10.29, 東京大学。

Hiroyuki Ogasawara. “Making the Genealogical Tree of the Ottoman Dynasty in the 15th-16th Centuries.” The 14th International Congress of Ottoman Social and Economic History(国際学会), 2017.7.27, Sofia: University of Sofia (ブルガリア)

Jun Akiba. “A Historian by Vocation, a Naib by Occupation: The Life and Career of Şemdanizade Süleyman Efendi (d. 1780).” The 14th International Congress of Ottoman Social and Economic History(国際学会), 2017.7.26, Sofia: University of Sofia (ブルガリア)

Jun Akiba. “Ankara, Sarajevo, and İbradı: Rise of Kuzat Families in the Ottoman Provinces.” International Workshop: Transformation of Ottoman Society during the Eighteenth Century(国際学会), 2017.7.9, 東洋文庫.

Madoka Morita. “Neighborhoods toward Consolidation: Marriage Contract, Religious Communities, and Local Leadership in Eighteenth-Century Istanbul.” International Workshop: Transformation of Ottoman Society during the Eighteenth Century(国際学会), 2017.7.9, 東洋文庫.

秋葉淳「ディーワーンと法廷:18世紀オスマン帝国の地方における司法行政」2017.5.14, 日本中東学会第33回年次大会(九州大学)

近藤信彰「サファヴィー朝期イラン法廷制度再考」2017.5.14, 日本中東学会第33回年次大会(九州大学)

Kazuaki Sawai. “16. Yızyılın ikinci yarısında İstanbul’a Yapılan Hububat Nakliyatı ve Sistemi.” Uluslararası IX. Türk Deniz Ticareti Tarihi Sempozyumu (国際学会), 2017.5.4, İstanbul Üniversitesi.

Madoka Morita. “Ordinary People out of the Ordinary? Approaching Neighborhood Communities in Early Modern Istanbul.” ANAMED Fellows’ Spring Workshop “Efrâd-ı Nâs: Humble Makers of History.” 2017.4.29.(国際学会), Koç University (トルコ、イスタンブル)

Hiroyuki Ogasawara. “Solving the Ottoman Genealogical Puzzle.” State, Religion, and Authority in the Post-Mongol Persianate World and Beyond(国際学会), 2017.3.19, 東京大学.

Jun Akiba. “The Governor’s Divan and its Successors: Judicial Authority in the Ottoman Provinces, 18th to 19th Centuries.” International Workshop: State and Shari‘a in Pre 20th Century Middle East(招待講演)(国際学会), 2017.2.18, 東京外国語大学.

Nobuaki Kondo. “State and Shari‘a in Early Modern Iran.” International Workshop: State and Shari‘a in Pre 20th Century Middle East(国際学会), 2017.2.18, 東京外国語大学.

秋葉淳「カーディーの町アンカラ、サラエヴォ:18世紀オスマン朝地方社会における権力基盤の一つとしての裁判官職」2016年度東洋史研究会大会(招待講演), 2016.11.6, 京都大学

Keiko Iwamoto. “Tax Revenue and

Troublesome Nomads: A Study of the Settlement Policy on Turkish and Kurdish Nomads by the Ottoman Empire.” Consortium for Asian and African Studies (CAAS) Symposium(国際学会), 2016.10.23, 東京外国語大学.

Jun Akiba. “Sharia Judge as a Tax Farmer: The Ottoman Judiciary during the 18th Century.” Turkologentag 2016 (国際学会), 2016.9.16., ハンブルク(ドイツ).

Hiroyuki Ogasawara. “The Identity and Legitimacy through the Ottoman Genealogical Tree Development.” 19th Annual Mediterranean Studies Association International Congress(国際学会), 2016.5.27, パレルモ(イタリア).

近藤信彰「19世紀後半テヘランの宗教的少数派 シャリーア法廷記録より」日本中東学会第32回年次大会, 2016.5.15, 慶應大学.

Hiroyuki Ogasawara. “The Mongol and Genghis Khan in the Ottoman Historiography.” International Workshop: Authority, Legitimacy and Historiography in the Ottoman Empire(国際学会), 2016.4.9, 東京外国語大学.

Kazuaki Sawai. “Unending Dialogue between the Present and the Past: A Natural Disasters in Early Modern Istanbul.” Workshop Co-organized by the Mediterranean Studies Group and Ionian University, Department of History(国際学会), 2016.3.28, イオニア大学(ギリシア).

② Yasushi Tonaga. “Sufi Studies in Japan: Its History and Future Perspective.” Commemorating Ceremony for the Establishment of Kenan Rifai Center for Sufi Studies Attached to Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University(国際学会), 2016.3.6, 京都大学.

② 澤井一彰「近世イスタンブルにおける自然災害と研究の現状」人間文化研究機構広領域型基幹研究「人命環境アーカイブズの過去・現在・未来に関する双方向的研究」対比班 プレ国際シンポジウム「近世巨大都市災害研究の現状と課題 ロンドン・イスタンブル・北京・江戸」(国際学会), 2016.2.19, 国文学研究資料館

③ Madoka Morita. “Open to Whom?: “Public Space” and Gender/Religious Boundaries in Istanbul (1730-54)” 共同研究「中東都市社会における人間移動と多民族・多宗派の共存(第2期)」第5回研究会(国際学会), 2016.2.17, 東京外国語大学

④ 秋葉淳「女性・ジェンダー史からみえるオスマン帝国の社会」2015年度NIHUイスラーム地域研究合同集会・公開講演会, 2016.1.30, 早稲田大学

⑤ 小笠原弘幸「公定歴史学と教科書-トルコ共和国における「正史」と歴史教育」九州史学会2015年大会全体シンポジウム「正史の近代 修史事業と歴史学」(招待講演)2015.12.12, 九州大学

⑥ Madoka Morita. “Between Hostility and Hospitality: Neighborhoods and Dynamics of Urban Migration in Istanbul (1730-54).” Middle Eastern and Islamic Studies in Japan: The State of the Art, Beirut(国際学会), 2015.11.27, AA 研中東研究日本

センター(JaCMES)(レバノン・ペイルート)

②⑦Keiko Iwamoto. "A Study on Turning Point for the Ottoman Policy Applied to Nomads: The Settlement Policy on Turkish and Kurdish Nomads in the 17th-18th Centuries." 49th MESA (Middle East Studies Association) Annual Meeting(国際学会), 2015.11.23, Sheraton Denver Downtown Hotel, Denver, CO (米国)

②⑧秋葉淳「18世紀オスマン帝国の裁判官のプロフィール:遺産目録を史料として」第57回日本オリエント学会年次大会, 2015.10.18, 北海道大学

②⑨高松洋一「マフムト1世による Ayasofya 図書館の蔵書形成:歴史書を中心として」第57回日本オリエント学会年次大会, 2015.10.18, 北海道大学

③⑩守田まどか「マフムト1世時代イスタンブールの「公共空間」と女性」第57回日本オリエント学会年次大会, 2015.10.18, 北海道大学

③⑪岩本佳子「オスマン帝国における免税特権と奉公集団 ルメリのユリユクとヤヤ・ミュセッレムの類似と相違」第4回オスマン史研究会(招待講演), 2015.7.14, 東洋文庫

③⑫秋葉淳「裁判官とその発給文書:18世紀オスマン朝歴史家=裁判官シエムダーニーザーデ・フンドゥクルル・スレイマンの業績」日本中東学会第31回年次大会, 2015.5.17, 同志社大学

③⑬小笠原弘幸「古典期オスマン帝国における「スルタン」号について」日本中東学会第31回年次大会, 2015.5.17, 同志社大学.

③⑭Keiko Iwamoto. "A Study on Nomads in the Pre-Modern Ottoman Empire: Yoruks in Rumeli, Descendants of the Conquerors and the Turkish and Kurdish Nomads." Japonya'da Sohbet-i Osmaniye-2(国際学会), 2015.3.25, 千葉大学

③⑮Madoka Morita. "Between 'Community's Peace' and Public Order: Neighborhoods and Urban Administration in Istanbul (1730-54)." Japonya'da Sohbet-i Osmaniye-2(国際学会), 2015.3.25, 千葉大学

③⑯秋葉淳「オスマン帝国における近代社会の形成(17~19世紀) 研究動向と新しい課題」 「近世イスラーム国家と周辺世界」第4回研究会, 2015.2.22, 東京外国語大学

③⑰近藤信彰「後期サファヴィー朝の財務行政」 「近世イスラーム国家と周辺世界」第4回研究会, 2015.2.22, 東京外国語大学

③⑱秋葉淳「コメント:イスラーム史から」国際シンポジウム「近世都市における個人と集団の記憶」(招待講演)(国際学会), 2014.9.27, 国文学研究資料館

③⑲Yoichi Takamatsu. "Ayasofya Kütüphanesi ve Koleksiyonu." Lalenin ve İsyanın Gölgelediği Yıllar I. Mahmud Dönemi, 1730-1754(招待講演)(国際学会), 2014.9.26, Mimar Sinan Üniversitesi, イスタンブール(トルコ)

④⑰Keiko Iwamoto. "The Change of the Ottoman Semi-Military Classes in the Balkan Peninsula: a Study of the Yörük in Rumeli and the Descendants of the Conquerors in the 17th and

18th Centuries." 4th World Congress for Middle Eastern Studies: (WOCMES 2014) (国際学会), 2014.8.20, 中東工科大学(トルコ、アンカラ)

④⑱小笠原弘幸「オスマンとモンゴル」第51回野尻湖クリルタイ(日本アルタイ学会)(招待講演), 2014.7.19, 藤屋旅館(長野県上水内郡)

④⑳守田まどか「18世紀オスマン帝国の移住規制政策と街区:イスタンブールにおける地方出身者の社会統合過程を中心に」第3回オスマン史研究会(招待講演), 2014.7.5, 東洋文庫他4件

〔図書〕(計14件)

川分圭子、玉木俊明(編著)、高松洋一(共著)『商業と異文化の接触:中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』(担当)「一八世紀オスマン帝国における紅海交易の一断面--問答集『ジッダ港の統治の秩序のために準備された諸留意点』」吉田書店, 2017, 913(719-749).

Tonaga Yasushi (ed.). *The Bridge of Cultures: Potentiality of Sufism*. Kenan Rifai Center for Sufi Studies, Kyoto University, 2017, 112p.

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵(編)、秋葉淳(共著)『新しく学ぶ西洋の歴史:アジアから考える』(担当)「タンジマート」ミネルヴァ書房, 2016, 397+23(161-162).

小澤実・長縄宣博(編)、小笠原弘幸(共著)『北西ユーラシア歴史空間の再構築:前近代ロシアと周辺世界』(担当)「オスマン朝におけるヨーロッパ認識の伝統と革新:一七世紀中葉以前の北西ユーラシア観を中心に」北海道大学出版会, 2016, 314+11(261-290).

小松久男(編)、小笠原弘幸(共著)『テュルクを知るための61章』(担当)「オスマン朝におけるテュルクの系譜 オグズ伝承から「系譜書」へ」 「コンスタンティノープルの征服 地中海と黒海の覇者テュルク」明石書店, 2016, 384(28-36, 248-252)

水島司(編)、澤井一彰(共著)『気候変動とオスマン朝「小氷期」における気候の寒冷化を中心に』(担当)「気候変動とオスマン朝「小氷期」における気候の寒冷化を中心に」 勉誠出版, 2016, 416(277-291).

東長靖・今松泰(共著)『イスラーム神秘思想の輝き:愛と知の探求』山川出版社, 2016, 112.

Tonaga Yasushi. *Bibliography of Sufism, Tariqa, and Saint Cult Studies in Japan* (『日本におけるスーフィズム・タリーカ・聖者信仰研究文献目録』). Kenan Rifai Center for Sufi Studies, Kyoto University, 2016, 26+126p.

渡辺浩一、ヴァネッサ・ハーディング(編)、秋葉淳(共著)『自己語りと記憶の比較都市史』(担当)「オスマン社会における都市の記憶と自己語り史料 18世紀末~19世紀初頭のイスタンブールとサラエヴォ」 勉誠出版, 2015, 263(199-216).

近藤信彰(編)、秋葉淳、小笠原弘幸(共著)『近世イスラーム国家史研究の現在』(担当)「18世紀オスマン朝史家シエムダーニーザーデ・

フンドゥクルル・スレイマン・エフェンディの職歴」,「史料解題 タンズイマート期・アブデュルハミト二世期に作成された歴史教科書」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2015, 397(259-276, 361-390).

Turk Tarih Kurumu(編), Hiroyuki Ogasawara (共著) XVI. *Turk Tarih Kongresi 20-24 Eylül 2010*, Ankara: *Kongreye Sunulan Bildirler*. Vol.3, Part 1, (担当) "Osmanlı hanedanı'nın atası olarak Kayı Han'ın seçilmesi: Veraset usulu açısından bir bakış." Ankara: Turk Tarih Kurumu, 2015, 551(525-533).

Kuroki Hidemitsu, ed., Yoichi Takamatsu (共著). *Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 1: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut*; (担当) "Ottoman Population Registers of Late 18th- and 19th-Century Istanbul As a Source for the Study of the Greek Orthodox (Rum) Population." ILCAA, 2015, 192(71-84).

小杉泰・林佳世子(編)、東長靖、小笠原弘幸、林佳世子(共著)『イスラーム書物の歴史』(担当)「アラビア文字文化圏の広がり」と写本文化」,「オスマン朝の写本文化」,「オスマン朝社会における本」,「イスラーム世界と活版印刷」名古屋大学出版会, 2014, 7+453(99-114, 239-278, 352-374).

高松洋一他(共著)『時空をこえる本の旅7トルコ』東洋文庫, 2014, 28(12, 16-19).

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

オスマン帝国史料解題「エゴドキュメント/自己語り史料」(秋葉淳)

<http://tbias.jp/ottomansources/ego-documents>

オスマン帝国史料解題「ファトワーとファトワー集」(秋葉淳)

<http://tbias.jp/ottomansources/fetva>

オスマン帝国史料解題「租税台帳」(岩本佳子) http://tbias.jp/ottomansources/tahrir_defteri

オスマン帝国史料解題「遺産目録」(秋葉淳) http://tbias.jp/ottomansources/tereke_defteri

【世界の図書館から】トプカプ宮殿博物館附属図書館(トルコ共和国)(岩本佳子) <http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/world-library11>

科研費を使用して開催した国際研究集会

シーリーン・ハマーデ氏講演会, 2017.7.15, 東洋文庫.

ワークショップ Japonya'da Sohbet-i Osmaniye-5, 2017.7.12, 東京大学

International Workshop: Transformation of Ottoman Society during the Eighteenth Century, 2017.7.9, 東洋文庫.

アリ・ヤイジュオール氏講演会, 2017.7.4, 明治大学

講演会 New Perspectives on the Study of the Post-Mongol Islamic World, 2017.3.26, 同志社大学.

ワークショップ Japonya'da Sohbet-i Osmaniye-4, 2017.3.21, 千葉大学

ワークショップ State, Religion, and Authority in the Post-Mongol Persianate World and Beyond, 2017.3.19, 東京大学.

第2回ボアチ・エルゲネ氏講演会, 2015.10.31, 東洋文庫.

第1回ボアチ・エルゲネ氏講演会, 2015.10.28, 京都大学.

ワークショップ Japonya'da Sohbet-i Osmaniye-2, 2015.3.25, 千葉大学.

バーキー・テズジャン氏講演会, 2015.3.24, 東洋文庫

6. 研究組織

(1)研究代表者

秋葉 淳 (AKIBA Jun)

千葉大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号: 00375601

(2)研究分担者

林 佳世子 (HAYASHI Kayoko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 30208615

小笠原 弘幸 (OGASAWARA Hiroyuki)

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号: 40542626

(3)連携研究者

高松 洋一 (TAKAMATSU Yoichi)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号: 90376822

近藤 信彰 (KONDO Nobuaki)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号: 90274993

澤井 一彰 (SAWAI Kazuaki)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 80635855

東長 靖 (TONAGA Yasushi)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号: 70217462

(4)研究協力者

岩本 佳子 (IWAMOTO Keiko)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号: 90736779

守田 まどか (MORITA Madoka)

東京大学・大学院人文社会系研究科・博士課程学生